

中央大學學制一覽



目次

一	記	一
二	沿革	一
三	總則	二
四	本科	二
	(一)學科(二)學年、休業(三)級別(四)入學、退學(五)試驗(六)學費	
五	專門科	一二頁
六	豫科	一九頁
七	研究科	二二頁
八	選科聽講	二四頁
九	外國語專修科	二四頁
十	給費生、特待生、貸費生及留學生	二六頁
十一	學生心得	二八頁
十二	圖書館規則	三〇頁
十三	學友會規則	三四頁
(附錄)	在外員規則	三四頁

中央大學新學年(四十五年度)の施設

一、法 科

法科大學英法科は江木法學博士の考案に基き今回歐米の視察を了へて歸朝せられたる土方法學博士主として其刷新を行はる即ち其旨趣は左の如し
法學の進歩は駁々底止する所を知らず故に之を授くるや亦務めて斬新なる理論を採取すべきは勿論なれども徒に理論の末節に拘々として實用の大本を閑却するは現今我法學界に於ける通弊なり

我國の法制を論ずるに當ては其母法たる獨國法理の研究を等閑に付すべからざることを言を諒たすも雖も由來實地應用の妙を極むるは英國法にして此長所を學得せしめんことを期するは實に吾建學の主旨たり爾來二十有六年其間業を卒へたる者既に六千に垂んとし各社會の諸方面に活動して知名の士指を屈するに遑あらず我學風の如何に付ては世上既に定評の存するあり本大學は自今以後十分此點に留意し學生をして益實地應用の神髓を修得せしむるに力めて活世界に活動する所の活人物を養成せんことを期す

今や各學執れも英國法を教へざるものなし然れども我國法と之を併課するが故に勢ひ少數の時間を以て最も學習に困難なる同法を授けざるを得ず從て其學科組織に付き熟慮を要すると同時に英國法に精通せる講師其人を得ざるべからず曷ぞ知らん世上往々僅に形式を糊塗するに止まり私法の根本たる財産法を缺き英國法の基礎たる衡平法を省て而も之を補充する方法を設けず其結果有名なる契約、私犯兩法を授くるも同國法の根本觀念を欠くか故に其美點の何れに在るやを解する能はず致ふる者、學ぶ者と共に墮然たるのみ本大學に於ては是等諸種の弊實に鑑み新學年より土方、松波、山田、池田、二上の諸講師に囑託し左の教科書に依りて英國法の大體を授け其足らざる點は之を講義に補ひ尚ほ一々我國法と對照して論評せらるべし

(一)、第一學年
Terry's Common Law.
Raleigh's Law of Property.

(二)、第二學年
Anson's Law of Contracts.
Bigelow's Law of Torts.

(三)、第三學年
Bigelow's Elements of Equity.
Chalmers' Sale of Goods Act.
Pollock's Partnership Act.
Pitman's Company Law
Chalmers' Bills & Note.
L. Duckworth's Marine Insurance.

又法科の授業は從來午前より開始したるか故に業務の餘暇を以て斯學を研究せんと欲する者に便ならざれば新學年より同一講座を複置し**夜間授業**を特設して別に毎日午後五時より授業を開始す法科學生は自己の都合に依り晝夜何れにても隨意に選擇修習することを得べし而して授業科目其他一切の學則は晝夜共に差異なし

二、經 濟 科

經濟科は從來頗る商科に近似したるを以て新に政治學、政治史、外交史、社會學等を加へ學科組織を一變し就學者をして一般經濟上及政治上の知識を學得せしめんことを期したり

三、商 科

本大學商科は歐米最新の制度を參酌して關博士の立案せられたるものに係り學科組織、授業方法及時間等主ら實用を旨とし創設以來三星霜を経本學年を以て漸く完成を見るに至り益其特長を發揮し殊に實習及實踐は内外實際の商況に精通せる諸名士に之を囑託したり而して各科擔任講師は左の如し

商 業 實 務	東京高等商業學校教授 東京高等商業學校教授 東京高等商業學校教授	理學士 商學士 商學士	石川文吾 伊藤萬太郎 村林義之助
商工經營論及 内外商業事情	東京高等商業學校教授 東京高等商業學校教授	法學博士 法學博士	根岸貞次 上野善作
賣買及取引所同	東京高等商業學校教授	法學博士	佐野忠行
商品學及商業地理	東京高等商業學校教授	理學士	星野太一郎
銀行及貨幣	中央大學書記 東京高等商業學校教授	法學士 商學士	内藤藤次郎 杉程次郎
鐵 道	東京高等商業學校教授 鐵道院東部管理局員	商學士	大久保一男
海 運	東京高等商業學校教授	商學士	堀久保一男
保 險	東京高等商業學校教授 東京高等商業學校教授	法學士 理學士	石川萬太郎 伊藤萬太郎 青藤衆司
簿記及會計學	東京高等商業學校教授 東京高等商業學校教授	商學士 法學博士	鹿野清次郎 茂木英雄
演 習	東京高等商業學校教授	法學博士	關金井延
經 濟 學	東京帝國大學法科大學教授	法學博士	馬場 鏌 一
財 政 學	東京高等商業學校教授	法學博士	關 柳 田 男
農 業 政 策	東京高等商業學校教授	法學士	柳 田 國 男
社會及工業政策	貴族院議員 東京高等商業學校教授	法學博士	桑 田 熊 一
殖 民 政 策	東京帝國大學法科大學教授	法學博士	河 津 暹
統 計 學	農商務省特許局審査官	法學士	三 浦 惠 一
民 法	大 審 院 判 事	法學士	伊 藤 悌 治
商 法	東京帝國大學法科大學教授 地方海員審判所理事官	法學博士 法學博士	岡野敬次郎 松本富久
國 際 法	東京高等商業學校教授	法學博士	中 村 進 午
工 業 通 論	東京高等工業學校教授		松 浦 和 平
英 語	東京高等商業學校教授 東京高等商業學校教授 東京高等商業學校教授 東京外國語學校教授	石川文吾 長谷川ハリス ウキリアム、ルース アーネスト、ルース 岡田實寬 片山 寬	

四、選 科 聽 講

本大學の銓衡を経たる者は他校學生は勿論何人にも選科生として其欲する所の講座に出席し一科若くは數科を選擇して聽講することを得べし殊に獨逸法英國法のみ聽講せんと欲する者に關して特に便宜を與ふ

五、圖 書 館 公 開

本大學圖書館は創立當時の設置に係り内外の書籍數萬部を備へ殊に英國法律書に至ては帝國大學圖書館に比して遜色なしと稱せらるる今亦新に學員諸氏の寄贈に成る奥田文庫の藏書を加へたれば一般圖書館に所藏せらるる書籍は悉く備はり參考書に於て遺憾なし又本大學講師にして元帝國圖書館司書長たり且現に日比谷圖書館長として令名ある文學士渡邊又次郎氏本大學圖書館長に就任せられたるを以て自今熟練なる氏の監督の下に各般の設備を完成し來る九月十一日より圖書館を公開すべし

大學記要

○沿革

明治十八年七月英吉利法律學校ヲ創設シ同二十二年十月東京法學院ト改メ同三十六年八月大學組織ト爲シ之ヲ東京法學院大學ト改メ同三十八年八月創立二十年ニ際シ事業ヲ擴張シテ中央大學ト改稱ス

○部門

從來ノ法律學及ヒ經濟學ノ外、商業學科ヲ新設シ三科共ニ之ヲ大學部專門部ノ二部門ニ分チ大學部ハ本科、豫科ヲ通シテ其修業年限ヲ四ヶ年半トシ專門部ハ三ヶ年トス

○修業程度

大學部本科ハ豫科卒業者若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ヲ入學セシメ法律、政治、經濟及ヒ商業ニ關スル學術ヲ教授シ尙ホ英語若クハ獨語ニ依リテ外國ノ法政經濟ヲ參加講修セシム

豫科ハ本科ニ入ルノ階梯ニシテ中學校卒業者及ヒ文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ之ト同等ノ學力アリト認メタル者ヲ入學セシム

專門部ハ中學校卒業者若クハ之ト同等ノ學力ヲ有スル學生ニシテ直ニ專門學ヲ修メントスル者ノ爲メニ之ヲ設ケ專ラ邦語ヲ以テ所定ノ學科ヲ教授スルモノトス

專門部ハ之ヲ正科、別科ノ二ト爲シ正科ハ中學校卒業者及ヒ文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ之ト同等ノ學力アリト認メタル者ヲ入學セシメ別科ハ本大學ニ於テ相當ノ學力アリト認メタル者ヲ入學セシム

○研究科

大學部又ハ專門部ノ卒業者ニシテ既修ノ學科ニ付キ尙ホ深遠ナル研究ヲ遂ケント欲スル者ノ爲メニ之ヲ設ク

○入學時期

大學本科、專門部正科ノ入學期ハ毎年九月ヨリ十月ニ涉リ三十日間トシ專門部別科及ヒ研究科ノ入學期ハ毎年九月及ヒ二月トシ大學豫科ノ入學期ハ毎年四月及

ヒ九月トス但シ專門部別科、研究科、大學豫科ニ於テハ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

○各種特典

中學校卒業者若クハ專門學校ノ入學ニ關シ之ト同一ノ資格ヲ有シ各科ニ入學シタル學生ハ明治三十二年六月文部省令第三十四號ニ依リ徵兵令第十三條ノ特例ヲ受ケ在學中徵集ヲ猶豫セラレ卒業ノ後ハ一年志願兵タルコトヲ得ルノ資格ヲ有ス

本學法律學科所定ノ年限間在學シ卒業シタル者ハ大學部ト專門部トヲ問ハス明治三十八年司法省令第十三號判事檢事登用試驗規則ニ依リ應試資格ヲ有ス但シ專門部別科生ハ明治四十年七月三十一日迄ニ卒業シタル者ニ限ル

○學士號

大學部卒業者及ヒ研究科卒業者ハ學士號ヲ稱スルコトヲ得

○圖書館

圖書館ニハ内外古今ノ書籍ヲ備置キ卒業者及ヒ學生ヲシテ隨意閱覽セシメ其研

學ニ資ス

○出版

法律學及ヒ經濟學ノ兩科講義録ヲ發行シテ之ヲ在外員ニ頒チ且ツ校内生ノ參考ニ資ス
大審院及ヒ行政裁判所ノ判決ニ就キ當該官廳ニ於テ其要ヲ摘ミ粹ヲ拔キ編纂セラレタル大審院判決録並ニ行政裁判所判決録ヲ發行シ全國法曹ニ頒テ其參考ニ資ス
本學講師ノ著述ニ係ル必要ナル教科書及ヒ參考書ヲ發行シテ學生ニ研學ノ便ヲ與フ

○法學新報

法學新報ハ毎月一回一日ヲ以テ發行ス岡野法學博士其編輯ヲ統理シ論說欄ニハ大家ノ意見ヲ紹介シ其他質疑ノ解答最新ノ判例趣味アル漫録有益ナル記事等ヲ掲載シテ廣ク致法家ノ參考ニ供ス

沿革 畧

本大學ハ最初英吉利法律學校ト稱シ明治十八年ノ創設ニ係ル其創立者ハ磯部醇、西川鐵次郎、穗積陳重、岡山兼吉、奥田義人、岡村輝彦、渡邊安積、高橋一勝、高橋健三、山田喜之助、増島六一郎、藤田隆三郎、江木衷、合川正道、菊池武夫、澁谷慥爾、土方寧、元田肇ノ十八氏ニシテ其所期ハ載セテ當時世ニ公ニシタル創立旨趣ニ在リ乃チ左ノ如シ

方今未タ英米法律ノ長所タル法律實地應用ノ道ニ通スル者甚タ尠シ是レ蓋シ講師ノ數全キヲ得テ其全科ヲ教フル所ナキト蘊奧ヲ極ムルニ足レル書籍ナク又法律書庫ノ設ナキトニ由ラスンハアラス而シテ世間往々英米法律ヲ教授スルノ校舎ナキニアラスト雖モ或ハ佛國ノ法律ヲ兼修セシメ或ハ専ラ英米法ヲ攷究スルモ專一ノ力ヲ其全體ニ及ホシ以テ實地應用ノ素ヲ養フモノ未ダ曾テ之アルヲ見ス是レ常ニ英米法學者ノ慨嘆スル所ナリ余輩茲ニ見ル所アリ數多ノ英米法學者相集マリテ英米法律ノ全科ヲ教授シ其書籍ヲ著述シ其法律書庫ヲ設立スルノ目的ヲ以テ本校ヲ設置ス

明治十八年七月

明治十八年九月十日東京神田區錦町二丁目二番地ニ開校シ増島六一郎氏ハ校長ニ澁谷慥爾氏ハ幹事ノ任ニ就ク當時ノ授業科目ハ左ノ如シ

第一學年 法學通論 刑法 契約法 私犯法 親族法 代理法 組合法 動產委託法 論理學
第二學年 實買法 財產法 會社法 流通證書法 商船法 保險法 國際公法 治罪法 訴訟法
訴訟演習

第三學年 財產法 破產法 法理學 法律沿革論 憲法 行政法 訴訟演習 卒業論文

當時其募集ニ應シ入學シタル學生九十七名アリ

同十九年四月澁谷健爾氏幹事ノ任ヲ辭シ渡邊安積氏其後任ト爲ル

同六月新ニ英米ノ律書ニ就テ講修スル所ノ科ヲ置キ從來ノ邦語ニ依ルモノヲ第一科(後ニ邦語法
學科ト改ム)新設ノモノヲ第二科(後ニ英語法學科ト改ム)ト稱ス而シテ第二科ニ入リタル學生
四十名アリ又英米ノ律書ハ價貴クシテ學生ノ購讀ニ便ナラサルカ故ニ其翻刻ヲ計畫シ同十月「テキ
スト、ブック」ノ初號ヲ發兌シタル當時ノ講師中ニハ米國總領事グレートハウス氏同副總領事シド
モーア氏「バリストター」リッチフ#101氏同ラウダー氏等ノ如キ外國學士アリテ亦授業ヲ助ケタリ

同七月第一回卒業證書授與式ヲ舉行シ卒業生四名アリ是レ創立當時募集ニ應セル學生中相當ノ學
力ヲ有シ第三學年ニ編入シタル者アリシヲ以テナリ

同月本校設立者高橋一勝氏病ノ爲メニ死ス

同八月私立法律學校特別監督條規ノ發布アリ同十二月東京府知事ヨリ「今般特ニ帝國大學總長ノ
監督ニ屬セラル、旨文部大臣ヨリ被相達候條其旨相心得ヘシ」トノ達ヲ受ク

同二十年二月幹事渡邊安積氏病ノ爲メニ死ス次テ幹事ノ職務ヲ七名ノ委員ニ分擔セシメタルモ廳
テ松野貞一郎、山田喜之助ノ兩氏專ラ之ニ當ルコト、爲レリ
同月故高橋一勝氏記念ノ爲メニ設置セラレタル高橋法律文庫ノ保管ヲ依囑セラレ
同月司法大臣ヨリ當分ノ内一ヶ年金五千圓下賜スル旨ノ達ヲ受ク蓋シ本校ハ司法ノ官職ニ適任ナ
ル堪能ノ士ヲ出スモノト信認セラレタルカ故ナリ
同九月邦語法學科ニ英語學ノ課目ヲ加ヘ米國人イーストレーキ氏クール氏等ヲシテ授業ヲ擔任セ
シメタリ

同十月第二回卒業證書授與式ヲ舉行ス

同二十一年一月煉瓦二層樓ノ校舍新築落成シタリ

同二月新年宴會ヲ兼テ新築落成式ヲ舉ケ内外ノ學者貴紳ヲ招待ス

同五月帝國大學總長ノ監督ヲ解カル

同月特別認可學校規則ノ發布アリ同七月文部大臣ヨリ同規則ニ依リ學則ヲ認可セラレ

同十月講師松野貞一郎、山田喜之助、校友花井卓藏、結城朝陽、中川真太郎、網倉兵作ノ諸氏相計
リテ校友會ヲ創設ス蓋シ其意本校講師及ヒ新舊校友相互ノ交情ヲ親密ナラシメンコトヲ期スルニ
在リ

二十二年二月第三回卒業證書授與式ヲ舉行ス

同四月新ニ發布セラレタル帝國憲法ヲ授業科目ニ加フ
 同九月第四回卒業證書授與式ヲ舉行シ此時初メテ英語法學科卒業者ヲ出ス其數二十六名アリ
 同十月文部大臣ノ認可ヲ得テ英吉利法律學校ヲ東京法學院ト改稱ス是レ一ニハ憲法既ニ制定セラ
 レ民法、商法、民事訴訟法等ノ編纂亦成ヲ告ケタレハ今後學生ノ主トシテ攷修スヘキハ此等ノ法典
 ニシテ外國法ノ研究ハ自ツカラ之ヲ第二位ニ置カサルヘカラス從テ英法專攷ノ意ヲ表示スル校名
 ハ修學ノ實ニ伴ハサルニ至リタルト又一ニハ杉浦重剛氏ノ監理セル東京文學院、故醫學博士櫻村清
 德氏ノ監理セル東京醫學院ト相合シテ一大學ヲ興サンコトヲ期シタルトニ因レリ
 二十三年八月曩ニ公布セラレタル民法、商法、裁判所構成法及ヒ民事訴訟法ヲ加ヘテ大ニ學科課
 程ヲ改正シタリ
 同十一月第五回卒業證書授與式ヲ舉行ス
 二十四年四月増島六一郎氏院長ノ職ヲ辭シ菊池武夫氏之ニ代リ幹事山田喜之助氏亦其職ヲ辭シタ
 リ
 同十一月第六回卒業證書授與式ヲ舉行ス
 二十五年二月設立者ノ一員大谷木備一郎氏病ノ爲メニ死ス
 同四月十日神田大火ノ際類焼ノ災ニ罹リ六百有餘坪ノ宏大ナル校舍ト本院及ヒ高橋法律文庫所藏
 ノ圖書十萬卷トヲ併セテ燒失シタリ

一千有餘名ノ學生ヲ有スル本院ハ校舍ヲ失ヒ圖書ヲ失ヒ又器具ヲ失フノ不幸ニ遭遇シタルモ職員
 ノ盡力ト帝國大學ノ好意トニ因リ僅ニ一週間ノ臨時休業ヲ爲シタルニ止マリ四月十八日一ツ橋外
 帝國大學講義室ニ假教場ヲ設ケテ授業ヲ繼續スルヲ得タリ
 舊民法公布セラレテ茲ニ二年其間攷究ヲ爲シタルノ結果、實質體裁共ニ宜キヲ得ス到底我邦ノ法
 典トシテ戴クヘカラサルモノナルコトヲ確信シタルカ故ニ本院設立者等ハ其所信ヲ貫徹センカ爲
 メ先ツ江木衷、高橋健三、穗積八束、松野貞一郎、土方寧、伊藤悌治、朝倉外茂鐵、中橋徳五郎、
 奥田義人、山田喜之助、岡村輝彦ノ諸氏連署シタル民法實施延期ノ意見書ヲ世ニ公ニシ續テ廣ク朝
 野ニ同志ヲ求メ大ニ帝國議會ノ反省ヲ促カシ遂ニ法典延期案ヲシテ貴衆兩院ヲ通過セシムルニ至
 レリ而シテ同案ノ議會通過ニ關スル院友諸氏ノ盡力ハ之ヲ特筆スルニ足ル
 同七月第七回卒業證書授與式ヲ一ツ橋外帝國大學講義室假教場ニ於テ舉行ス
 同八月校舍再築竣ル其工ヲ起スヤ殘礎ニ依リテ煉瓦石造ト爲シタリ復タ前日ノ層樓ナシト雖モ其
 堅牢ナルハ蓋シ當時市內比罕ナル所トス
 二十六年一月花井卓藏外十九氏ハ各院友ニ移檄シテ圖書蒐集ノ企ヲ爲シタリ當時之ニ應シ書籍及
 ヒ金員ヲ寄附シタル者二百有餘名、今日數萬ノ圖書ヲ備フルヲ得ルニ至リシハ此舉モ亦有力ナル
 援助ヲ爲シタルモノニシテ院友諸氏ノ勞ヲ多トセサルヲ得ス
 同二月幹事松野貞一郎氏病ノ爲メニ死シ奥田義人氏其任ヲ襲フ

同七月第八回卒業證書授與式ヲ舉行ス
同十一月特別認可學校規則ヲ廢セラル
同十二月判事檢事登用試験規則第五條ニ依リ司法省ノ指定ヲ受ク
二十七年五月設立者ノ一員岡山兼吉氏病ノ爲メニ死ス
同七月第九回卒業證書授與式ヲ舉行ス
同八月學則ニ改正ヲ加ヘ民法及ヒ商法ノ分科ヲ始メ法學通論、法例、刑法、訴訟法、國際法、法理學、擬律擬判、國法學、論理學、羅馬法等ヲ學理的ニ分類配置シ英國法ヲ參考科ト爲ス此改正ハ實ニ現行學科課程ノ基礎ヲ成シタリ
同十月設立者ノ一員合川正道氏病ノ爲メニ死ス
二十八年一月設立者ノ一員ニシテ第一回ノ幹事タリシ澁谷慥爾氏病ノ爲メニ死ス
同七月第十回卒業證書授與式ヲ舉行ス
二十九年七月第十一回卒業證書授與式ヲ舉行ス
同八月學則ニ改正ヲ加フ即チ曩ニ公布アリタル修正民法第一編、第二編、第三編ヲ學則中ニ編入シ又新ニ高等法學科ヲ置キ本院卒業生及ヒ同等學校卒業生ニシテ尙ホ法理ノ蘊奧ヲ究メント欲スル者ニ便シ其業ヲ卒フル者ヲシテ東京法學院學士ト稱スルコトヲ得セシメ且ツ學生獎勵ノ爲メ特待生ノ制ヲ設ク

三十年一月更ニ幹事一名ヲ増員スルコト、シ藤田隆三郎氏其選ニ當ル
同七月第十二回卒業證書授與式ヲ舉行ス
同八月卒業生中俊秀ナル者ヲ選ミ海外ニ留學セシムルノ制ヲ設ク
同月英語學及ヒ漢文ノ兼修科ヲ増設ス前年中學程度ノ豫科ヲ置キ尙ホ英語學ノ兼修ヲ獎勵セシモ幾多ノ新法典陸續トシテ發布セラレ爾來新法ノ研鑽ニ忙ハシク普通學及ヒ外國語ノ兼修ハ殆ント中絶ノ狀態ニ陥リシカ是ニ至リ兼修科ノ名ヲ以テ之ヲ再興シタリ
三十一年六月幹事奥田義人氏歐米遊歷ノ途ニ上ル
同七月第十三回卒業證書授與式ヲ舉行ス
同月設立者ノ一員高橋健三氏病ノ爲メニ死ス
同月幹事藤田隆三郎氏辭任シ土方寧氏其任ヲ襲フ
三十二年一月幹事奥田義人氏歐洲ヨリ歸朝ス
同七月第十四回卒業證書授與式ヲ舉行ス
同十二月本院留學生渡邊豐治氏獨逸國ニ向ヒ出發ス
三十三年七月第十五回卒業證書授與式ヲ舉行ス
三十四年七月第十六回卒業證書授與式ヲ舉行ス
三十五年三月理事者ノ間ニ學制革新ノ議起リテ之ヲ維持員會議ニ付シタリ或ハ大學組織ト爲サン

ト主張スルアリ或ハ尙ホ低度ニ止メント論スル者アリシモ學校ノ品位ヲ高カラシムルノ點ニ付テハ異議者ナク其間數同ノ協議ヲ重ネ遂ニ左ノ主旨ヲ決議シタリ

普通學ノ素養ヲ缺クカ爲メニ専門ノ智識ヲ十分ニ發揮シ得サル者多キハ現今私立法律學校卒業生ノ一大缺點ナリ本院ハ主トシテ此弊ヲ除去セント欲シ其第一著手トシテ中學卒業生若クハ之ト同等以上ノ學力アルモノニアラサレハ其入學ヲ許サ、ルコト、シ之ニ關聯スル制度ヲ改正スヘシ

法律、經濟ノ學ハ年ヲ逐テ進歩シ駸々底止スル所ヲ知ラス故ニ其教授法モ亦務メテ斬新ナル理論ヲ採收スヘキハ勿論ナレトモ徒ニ理論ノ末節ニ拘々トシテ實用ノ大本ヲ閑却スルハ現今法學生通有ノ一大缺點ニシテ抑モ亦本院創立ノ主旨ニ背反セリ是故ニ本院ハ理論ノ攷究ト同時ニ其應用ニ熟達セシムルコトヲ努メ之ニ關聯スル制度ヲ改定スヘシ

同七月第十七回卒業證書授與式ヲ舉行ス

同九月學生ヲシテ學理ノ應用ニ熟達セシムルノ目的ヲ以テ實習科ヲ設ク

三十六年ニ入り年來ノ宿題タル大學組織ノ議復ヒ起リ理事者ハ數回ノ協議ヲ爲シタリ蓋シ中學ノ教育近來漸ク發達シ卒業者ハ萬ヲ以テ數フルニ至リタルニ拘ハラズ國家ノ高等教育ニ關スル設備未タ整ハサルカ爲メ此等中學卒業者ニシテ更ニ高等ノ學ニ志スモ其意ヲ達スルコト能ハサル者年々其數ヲ増セリ加之專門學校令ノ發布セラル、アリテ前年ノ決議モ輒ク實行スルコト能ハサルニ

至リタレハ此際寧ロ學科程度ヲ一層高尚ナラシメ斷然大學組織ト爲シ此等ノ者ヲ收容シテ其志望ヲ充タサシメントスルニ在リ此計畫畧ホ熟シ大學部、専門部、大學豫科等ヲ設置シ専門部ハ中學校ト直接連絡セシメ大學部ニハ中學卒業者ニシテ一今年半ノ豫科ヲ經由シタル者ヲ入學セシムルコト、シ又一面ニ在リテハ本院ヲ社團法人ト爲スコト、シ五月此二案ヲ具シテ維持員會議ニ付シタリ爾來會同數回議漸ク決ス

同七月第十八回卒業證書授與式ヲ舉行ス

同月十七日校名ヲ東京法學院大學ト改稱シテ社團法人ト爲シ且ツ新學則ノ認可ヲ主務省ニ申請シタリシカ漸ク八月五日及ヒ同十二日ヲ以テ定款並ニ學則ノ認可ヲ受ク

同八月新定款ニ依リ職員ノ選舉ヲ執行ス菊池武夫、土方寧、奥田義人ノ三氏ハ高點ニ依リ理事ニ當選シ互選ノ結果菊池武夫氏學長ニ舉ケラレ又處務規程ニ依リ坂本武治氏ハ幹事ニ舉ケラル

同月社團法人ノ登記ヲ爲シ新學制ヲ世上ニ發表ス

同月留學生渡邊豐治氏歸朝ス

三十七年七月第十九回卒業證書授與式ヲ舉行ス

同九月七日卒業生ノ學士號ヲ認可セラル

三十八年四月外國語專修科ヲ置キテ主ラ外國語ノ修養ニ便セシメ且ツ傍聽生ノ制ヲ設ク

同月判事檢事登用試驗規則ノ改正アリテ豫備試驗ノ制ヲ設ケラレ同六月文官高等試驗規則モ亦改

正セラル

同七月本大學ノ事業ヲ擴張シテ經濟學科ヲ獨立セシメ校名ヲ中央大學ト改稱スヘキコトヲ主務省ニ申請シ八月十八日及ヒ同十九日ヲ以テ其認可ヲ受ク

同八月留學生大場茂馬氏ハ獨逸國ニ茅原廉太郎氏ハ米國ニ向テ出發ス

同十一月記念講堂落成ス先是院友會ニ於テ本年ハ英吉利法律學校創立以來二十年ニ相當スルニ因リ此記念事業トシテ院友各自應分ノ出資ヲ爲シ講堂ヲ建築シテ本學ニ寄附スヘキコトヲ決議シ院友坂本武治氏常務委員長ニ石山彌平、伊藤高行、井上敬吉、花井卓藏、大久保子來、大場茂馬、渡邊豊治、田中文藏、田中武雄、三宅碩夫、三浦大五郎ノ諸氏同委員ノ任ニ當リテ之ヲ經營ス記念講堂即チ是ナリ

同月創立二十年記念式並第二十回卒業證書授與式ヲ舉ケ内外ノ學者貴紳ヲ招待ス

三十九年一月留學生荻野對助氏米國ニ向テ出發ス

同二月六日専門學校令ニ依リ本科専門科正科生ノ入學期ニ關シ學則中一部改正ヲ認可セラル

三月理事土方寧氏辭任シ伊藤悌治氏其任ヲ襲フ

同七月第二十一回卒業證書授與式ヲ舉行ス

同七月二十四日研究科授業料ニ關シ學則中一部改正ヲ認可セラル

同八月理事滿期ニ付キ改選ノ結果總テ重任ニ決ス

四十年六月十七日本科専門科授業料ノ件ニ付學則中一部改正ヲ認可セラル

同七月第二十二回卒業證書授與式ヲ舉行ス

同十二月十四日豫科ノ學科中ニ物理、化學、博物、數學ヲ加ルフコトニ關シ學則中一部改正ヲ認可セラル

四十一年三月留學生大場茂馬氏歸朝ス

同四月一日豫科定員ノ増加ヲ認可セラル

同七月第二十三回卒業證書授與式ヲ舉行ス經濟科ニ在テハ第一回ノ卒業證書授與式ニシテ卒業者ハ本科四名専門科十三名アリ

同月學則中給費生ヲ置クコト及ヒ選科聽講ノ制ヲ新設スルコトヲ認可セラル

四十二年七月第二十四回卒業證書授與式ヲ舉行ス

同月本大學ノ事業ヲ擴張シテ商業學科ヲ新設スヘキコトヲ主務省ニ申請シ八月十八日ヲ以テ其認可ヲ受ク

同八月理事滿期ニ付キ改選ノ結果總テ再任ニ決ス

四十三年八月二十四日商業學科課程表ノ件ニ付學則中一部改正ヲ認可セラル

四十三年十一月第二十五回卒業證書授與式ヲ舉行ス

四十四年四月校舍増築工事落成ス先是學員會ニ於テ昨四十三年ハ創立第二十五年ニ相當スルニ因

リ此記念事業トシテ學員各自應分ノ出資ヲ爲シ校舍ヲ増築シテ本學ニ寄附シ且ツ與田法學博士カ懇切授業ノ任ニ當ラル、コト亦二十五年ノ久シキニ亘ルヲ以テ本學内ニ與田文庫ヲ設置シテ之ヲ記念セントコトヲ決議シ講師元田肇氏ヲ委員長ニ講師岡村輝彦氏ヲ建築委員長ニ推舉シテ學員諸氏協力經營ノ任ニ當リ茲ニ至リテ工事漸ク竣ルヲ告ク
同月創立二十五年記念式ヲ舉ケ内外ノ學者貴紳ヲ招待ス
四十四年七月第二十六回卒業證書授與式ヲ舉行ス

私立中央大學學則

第一章 總則

- 第一條 本大學ハ法律、政治、經濟及ヒ商業ニ關スル高等專門ノ學術ヲ教授スル所トス
- 第二條 本大學ニ研究科、本科、専門科及ヒ豫科ヲ置ク
- 第三條 本科ハ豫科ヲ卒業シタル者若クハ之ト同等ノ學力ヲ有シ且ツ第四十八條ノ資格ヲ有スル者ヲ入學セシメ法律、政治、經濟及ヒ商業ニ關スル高等專門ノ學術ヲ教授シ英語若クハ獨逸語ニ依リテ是等専門學ヲ參加講修セシム
- 専門科ハ第三十六條ニ定ムル所ノ學力ヲ有スル者ヲ入學セシメ專ラ邦語ヲ以テ法律、政治、經濟及ヒ商業ニ關スル高等専門ノ學術ヲ教授ス
- 研究科ハ本科、専門科ノ卒業者ヲ入學セシメ既修ノ學科ニ付キ尙ホ深達ナル研究ヲ爲サシム
- 豫科ハ本科ニ入ルノ階梯トス
- 第四條 本大學學生ハ徵兵令第十三條ノ特例ヲ受ケ在學中ハ徵集ヲ猶豫セラレ卒業ノ後ハ一年志願兵タルコトヲ得
- 但シ別科生及ヒ別科卒業者ニシテ研究科生タルモノハ此限ニ在ラス
- 第五條 各科ヲ卒業シタル者ニハ其卒業證書ヲ授與ス

第六條 左ニ掲クル者ハ中央大學法學士ト稱スルコトヲ得

- 一 法律學及ヒ經濟學本科卒業者
 - 二 同上研究科卒業者
 - 三 舊東京法學院高等法學科卒業者
 - 四 舊東京法學院大學研究科卒業者
- 左ニ掲クル者ハ中央大學商學士ト稱スルコトヲ得
- 一 商業學本科卒業者
 - 二 同上研究科卒業者但シ別科卒業者ヲ除ク

第二章 本科

第一節 學科

第七條 本科ニ於テ教授スル科目左ノ如シ

憲法	行政法	刑法	民法
商法	刑事訴訟法	民事訴訟法	破產法
國際公法	國際私法	經濟學	財政學
法律學科	行政法	刑	民
	刑法	民事訴訟法	破產法
	國際私法	經濟學	財政學

羅馬法	法理學	英國法	獨逸法
經濟學	財政學	統計學	經濟史及經濟學史
經濟貨物論	經濟地理	計算學	憲法
行政法	國際公法	國際私法	民法
商法	政治學	政治史	外交史
社會學	英語		
商業學科			
商業學	經濟學	財政學	統計學
商業史	商品學	商業地理	簿記及會計學
商工經營論	工業通論	法律學	英語

其各科目ノ級別ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

第八條 本科學生ヲシテ學理ノ應用ヲ鍛練セシメ兼テ論文ノ起草、法規ノ立案ヲ指導スル爲メ左ノ實習科ヲ置ク

國法實習(憲政)	刑法實習(刑事訴訟法)
國法實習(憲政)	民法實習(民事訴訟法)
私法實習(商民)	民事訴訟法實習(民事訴訟法)

國際法 實習(國際私法)
商業實習

經濟學 實習(經濟學)

其各科目ノ級別ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

第二節 學年、休業

第九條 本科ノ修業年限ヲ三ヶ年トシ學級ヲ分テ第一學年、第二學年、第三學年トス
學年ハ九月十一日ニ始マリ七月十日ニ終ル

第十條 本大學休業日ハ左ノ如シ

自七月十一日至九月十日

自十二月二十六日至一月七日

日曜日及ヒ大祭祝日

第三節 級別

第十一條 本科ノ級別及ヒ學科課程ヲ定ムルコト左ノ如シ

科	法律學科課程表		
	第一學年	第二學年	第三學年
民法	債權法、親族法	物權法、債權法	行政法
憲法	憲法	比較憲法	
商法	商法總論、手形法	商法總論、手形法	海商法、保險法
刑事法	刑法各論	刑事訴訟法	民事訴訟法
破產法		破產法	
經濟學	經濟學	財政學	
國際法	國際公法	國際私法	
羅馬法	羅馬法		
法理學		法理學	
英國法	英國法		
獨逸法	獨逸法		
實習科	刑法實習、私法實習	民法實習、私法實習	國際法實習、民事訴訟法實習

商法	商法總論、手形法	海商法、保險法
刑法	刑法各論	民事訴訟法
破產法		破產法
經濟學	經濟學	財政學
國際法	國際公法	國際私法
羅馬法	羅馬法	
法理學		法理學
英國法	英國法	
獨逸法	獨逸法	
實習科	刑法實習、私法實習	民法實習、私法實習
		國際法實習、民事訴訟法實習

◎英國法及ヒ獨逸法ハ實科ニ於テ修業ノ外國語ニ從ヒ其一ヲ擇ハシム

商業學科課程表		第一一年		第二二年		第三三年	
科目級別	第一一年	第二二年	第三三年	科目級別	第一一年	第二二年	第三三年
政治學		政治史	政治學	簿記及會計學	簿記及會計學	同上	同上
政治史		外交史		商業實務	商業實務	同上	同上
外交史		社會學		內商工經營論及 外商經營論及 商業實務	同上	同上	同上
社會學	社會學						
英語經濟	英語經濟	同上	同上				
英語經濟	英語經濟	同上	同上				
實習科		私經濟學 法實習	同上				
英語	英語	同上	同上				

七

經濟學科課程表		第一一年		第二二年		第三三年	
科目級別	第一一年	第二二年	第三三年	科目級別	第一一年	第二二年	第三三年
經濟學	經濟學通論	貨幣論、農業政策	信用銀行論、商業政策、 殖民政策、社會政策及工 業政策、保險政策	財政學	財政學	同上	同上
統計學	統計學	人口及經濟統計學		統計學	統計學	同上	同上
簿記原理	簿記原理			簿記原理	簿記原理	同上	同上
經濟史	經濟史	經濟史及經濟學史		經濟史	經濟史及經濟學史	同上	同上
經濟貨物論	經濟貨物論	同上		經濟貨物論	同上	同上	同上
經濟地理	經濟地理	物權法、債權法		經濟地理	同上	同上	同上
民法	民法總論、物權法、 債權法	同上		民法	同上	同上	同上
商法	商法總論、會社法、 商行為論、手形法	同上		商法	同上	同上	同上
國法	憲法	同上		國法	同上	同上	同上
國際法	國際公法	國際私法		國際法	同上	同上	同上

六

賣買及取引所	賣買及取引所	銀行 (貨幣及信 用ヲ含ム)	保險	鐵道	海運	商業地理	商法	同上	財政學	殖民政策	統計學	英語	商業演習
銀行													
保險													
鐵道													
海運													
商品學及商業地理	商品學												
法律學	民法												
經濟學	經濟學												
財政學													
殖民政策													
統計學	統計學												
英語	英語												
演習科													

工業通論	工業通論	國際法 (意註)	破產法 (意註)
隨 意 科			

第四節 入學、退學

第十二條 本科ニ入學ヲ許スハ年齡十八年以上ノ男子ニシテ本大學豫科卒業者若クハ之ト同等ノ學力ヲ有シ且ツ第四十八條ノ資格ヲ有スル者トス

但シ二年級以上ニ編入スルニハ前項ノ資格ヲ有シ尙ホ前各級ノ科目ニ付キ試驗ヲ受ケ合格スルコトヲ要ス受験者ハ編入試驗手數料トシテ金一圓ヲ納ムヘシ

第十三條 入學志願者ハ入學申込書ニ履歷書ヲ添ヘテ本大學教務係ニ差出スヘシ

但シ入學試驗ヲ受ケント欲スル者ハ申込ト同時ニ受験料金一圓ヲ納ムヘシ

第十四條 本大學ノ入學期ハ毎年一回九月ヨリ十月ニ涉リ其期間ヲ三十日トス

第十五條 入學ノ許可ヲ得タルトキハ直ニ保證人ト連署シテ在學證ヲ差出スヘシ

但シ在學證用紙ハ必ス教務係ヨリ申受クヘシ

第十六條 保證人ハ身元確實ニシテ東京市内ニ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ男子タルコトヲ要ス

第十七條 疾病其他ノ事故アリテ退學セント欲スル者ハ保證人連署ノ上願出テ學長ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條 學業劣等、怠惰、品行不良若クハ疾病等ニ依リ成業ノ見込ナキ者、校規ニ背キ又ハ校命ヲ奉セサル者ハ退學ヲ命ス

第十九條 何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ引續キ一个年間闕席シ又ハ正當ノ事由ナク一个月以上闕席シタル者ハ學籍ヨリ削除スヘシ

第五節 試験

第二十條 毎學年ノ終ニ於テ學年試験ヲ舉行ス

但シ試験期日ハ試験開始ノ二十日前マテニ之ヲ揭示ス

第二十一條 試験ノ方法ハ筆記及ヒ口述ノ二トス

第二十二條 各課目一百點ヲ以テ滿點トシ左表ノ定規ニ依リ及第、落第ヲ定ム

諸科目得點平均數	六十點未滿科目數	六十點未滿點數	結果
六十點以上	無		及第
六十點以上	一科	四十點以上	及第
六十點以上	二科	四十點以上	及第
六十點以上	三科	五十點以下	落第

六十點以上	一科	三十點以下	落第
六十點以下			落第

第二十三條 疾病其他止ムヲ得サル事故アリテ學年試験ニ闕席シタル者ノ爲メ詮議ノ上次學年ノ始ニ於テ補缺試験ヲ舉行ス

但シ此場合ニ於テハ手數料トシテ金二圓ヲ納メシム

第二十四條 試験成績ハ學業ノ優劣ニ從ヒテ列叙セル席次表ニ各科平均得點數ヲ附記シテ之ヲ揭示ス

但シ成績表ヲ印刷ニ付シテ各學生ノ保證人ニ配付スルコトアルヘシ

第六節 學費

第二十五條 學生入學ノ節ハ入學料トシテ金二圓ヲ納ムヘシ

第二十六條 授業料ハ一學年金二十五圓トシ之ヲ左ノ二期ニ徵收ス

但シ當分ノ内月割金二圓五十錢ツ、分納スルモ妨ケナシ

第一期 九月(金十二圓五十錢) 第二期 二月(金十二圓五十錢)

第二十七條 學年ノ中途ニ入學シ若クハ退學スル者ハ特ニ入學以前及ヒ退學以後ノ授業料分納額ヲ免除ス

第二十八條 授業料ヲ月割分納スル者ハ翌月分ヲ前月末日マテニ會計係ニ納付シ之ト引替ニ聽講券ヲ受取ルヘシ

第二十九條 既ニ納付シタル授業料ハ中途退學スルモ之ヲ返付セス

第三十條 授業料ニ怠納アル者ハ納付済ノ上ニアラサレハ學年試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第三章 専門科

第一節 學科

第三十一條 専門科ニ於テ教授スル科目ハ左ノ如シ

法律學科	法學通論	憲法	行政法	刑法
	民法	商法	刑事訴訟法	民事訴訟法
	破産法	國際公法	國際私法	經濟學
經濟學科	經濟學	財政學	統計學	經濟史
	經濟地理	經濟學	會計學	憲法

行政法	國際公法	國際私法	民法
商法	政治學	政治史	外交史
社會學	英語		
商業學科	經濟學	財政學	統計學
簿記及會計學	商業史	商品學	商業地理
商工經營論	工業通論	法律學	英語

其各科目ノ級別ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

第三十二條 専門科ニ於ケル實習科ニ付テハ第八條ヲ適用ス

第三十三條 専門科ノ修業年限、學年ノ終始及ヒ休業日ハ本科ニ同シ

第二節 級別

第三十四條 専門科ノ級別及ヒ學科課程ヲ定ムルコト左ノ如シ

隨 意 科	工 業 通 論	演 習 科	英 語	統 計 學	殖 民 政 策	財 政 學	經 濟 學	法 律 學	商 品 學 及 商 業 地 理	海 運	鐵 道	保 險
	工 業 通 論		英 語	統 計 學			經 濟 學	民 法	商 品 學			
國 際 法 (意隨)			同 上			同 上	同 上	商 法	商 業 地 理	鐵 道		
破 產 法 (意隨)		商 業 演 習	同 上		殖 民 政 策	財 政 學		同		海 運		保 險

商業學科課程表											
科目級別											
銀 行	賣 買 及 取 引 所	內 外 商 業 營 事 情 及	商 業 實 務	簿 記 及 會 計 學							
	賣 買 及 取 引 所		商 業 實 務	簿 記 及 會 計 學	第 一 年						
銀 行 (貨 幣 及 信 用 法 含 入)		內 外 商 業 營 事 情 及	同 上	同 上	第 二 年					政 治 史	
		同 上	同 上	同 上	第 三 年						政 治 學
英 語	實 習 科	社 會 學	外 交 史	政 治 史							
英 語		社 會 學									
同 上	私 人 經 濟 學 實 習		外 交 史	政 治 史							
同 上	同 上										政 治 學

第四節 入學、退學

第三十五條 專門科ハ年齢十七年以上ノ男子ニ限リ入學セシム

第三十六條 專門科ノ學生ヲ正科生及ヒ別科生ノ二種トシ左ノ區別ニ依リテ入學セシム

一 正科生ハ左ノ資格ヲ有シ入學スル者トス

中學校卒業者、師範學校卒業者、專門學校入學者檢定規定ニ依リ試験檢定合格證書ヲ有スル者、明治三十五年文部省告示第八十二號ニ依リ高等學校入學ノ豫備試験ニ合格シタル者、文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者、特ニ經濟科及商科ニ限リ甲種商業學校ヲ卒業シタル者

二 別科生ハ前項以外ノ者ニシテ本大學ニ於テ志願者ノ履歷ニ就キ銓衡ノ上入學ヲ許シタル者トス

但シ其履歷ニ依リ特ニ國語、漢文、數學ノ三科目ニ付キ試験ヲ行フコトアルヘシ

第三十七條 專門科二年級以上ニ編入スルニハ前條ノ資格ヲ有シ尙ホ前各級ノ科目ニ付キ試験ヲ受ケ合格スルコトヲ要ス

但シ編入試験手数料ハ金一圓トス

第三十八條 專門科正科ノ入學期ハ毎年一回九月ヨリ十月ニ涉リ其期間ヲ三十日トシ別科生ハ隨

時入學ヲ許ス

第三十九條 第十三條、第十五條乃至第十九條ハ專門科學生ニモ之ヲ適用ス

第五節 試験

第四十條 專門科ノ試験ニ關シテハ第二章第五節ヲ適用ス

第六節 學費

第四十一條 學生入學ノ節ハ入學料トシテ金二圓ヲ納ムヘシ

第四十二條 授業料ハ一學年金二十五圓トシ之ヲ左ノ二期ニ徴收ス

但シ當分ノ内月割金二圓五十錢ツ、分納スルモ妨ケナシ

第一期 九月(金十二圓五十錢) 第二期 二月(金十二圓五十錢)

第四十三條 第二十七條乃至第三十條ハ專門科學生ニモ之ヲ適用ス

第四章 豫科

第一節 學科課程

第四十四條 豫科ノ學科課程ヲ定ムルコト左ノ如シ

豫科學科課程表

科目	級別	第一學期			第二學期			第三學期		
		業時數	業時數	業時數	業時數	業時數	業時數	業時數	業時數	
修身		一			一			一		
國語	漢文							五		
外國語	(英若クハ獨)			一八				一五		
數學				八				四		
歷史、地理								三		
物理、化學								二		
博物								一		
法學通論	(經濟通論若クハ商業通論)							二		
論理學								二		
合計		三二			三五			三五		

◎學科及ヒ每週授業時數ハ都合ニ依リ變更スルコトアルヘシ但シ一週授業時數ハ各科ヲ通シテ二十八時間ヲ下ルヲ得ス

◎歴史、地理、物理、化學、博物ノ五科ハ場合ニ依リ其中ノ一科若クハ數科ヲ缺キ又ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトアルヘシ

第二節 學期、休業

第四十五條 修業期ヲ三學期トシ第一期ハ四月二日ヨリ七月十日迄トシ第二期ハ九月十一日ヨリ翌年二月二十八日迄トシ第三期ハ三月一日ヨリ七月十日迄トス

第四十六條 第十條ハ豫科ニモ之ヲ適用ス

第三節 入學、退學

第四十七條 入學期ハ每學期ノ始トス

但シ入學期ノ外補缺トシテ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第四十八條 入學志願者ハ年齢十七年以上ノ男子ニシテ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ル

- 一 中學校卒業者
- 二 師範學校卒業者
- 三 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定合格證書ヲ有スル者
- 四 明治三十五年文部省告示第八十二號ニ依リ高等學校入學ノ豫備試験ニ合格シタル者
- 五 文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シクル者

六 特ニ經濟科及商科ニ限リ甲種商業學校ヲ卒業シタル者
第四十九條 第十三條、第十五條乃至第十九條ハ豫科學生ニモ之ヲ適用ス

第四節 試驗

第五十條 第二章第五節ハ之ヲ豫科ニ準用ス

第五節 學費

第五十一條 學生入學ノ節ハ入學料トシテ金二圓ヲ納ムヘシ

第五十二條 授業料ハ第一期金七圓五十錢 第二期金十五圓 第三期金十圓トシ之ヲ左ノ三期ニ
徴收ス

但シ當分ノ内月割金二圓五十錢ツ、分納スルモ妨ケナシ
第一期 四月(金七圓五十錢) 第二期 九月(金十五圓) 第三期 三月(金十圓)

第五十三條 第二十七條乃至第三十條ハ豫科學生ニモ之ヲ準用ス

第五章 研究科

第五十四條 研究科ハ本科、専門科ノ卒業生ニシテ既修ノ學科ニ付キ尙ホ深遠ナル研究ヲ爲シ又ハ
外國語ニ依リ深ク法律ノ研究ヲ爲サント欲スル者ノ爲メニ之ヲ設ク

第五十五條 研究科ノ修業科目ハ左ノ十科トシ各自志望ノ科目ヲ專攻セシム

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-----|-----------|
| 憲 法 | 行 政 法 | 刑 法 | 民 法 | 商 法 | 民 事 訴 訟 法 |
| 國 際 法 | 法 理 學 | 經 濟 學 | 商 業 學 | | |

第五十六條 修業年限ハ一年以上三年以下トス
第五十七條 入學期ハ毎年九月トス

但シ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第五十八條 研究科ハ本科、専門科、舊英吉利法律學校、舊東京法學院及ヒ舊東京法學院大學ノ卒業
生ニシテ學長ノ承認ヲ經タル者ニ限リ入學ヲ許ス

但シ同等學校卒業生若クハ之ト同等ノ學力アル者ニシテ學長ノ承認ヲ經タル者亦同シ

第五十九條 本則第四條、第十五條乃至第十九條ハ之ヲ研究科學生ニ準用ス

第六十條 研究科ノ授業料ハ、一个年金二十圓トシ分納額一个月金二圓トス
但シ學費納付ノ手續ハ一般ノ學則ニ依ル

第六十一條 研究科學生ハ特ニ開ク講義ヲ聽聞スルノ外本大學ノ指定セル講師ノ指導ニ從ヒ專攻
ノ學科ヲ研究スルモノトス
但シ一般學生ノ爲メニスル講義ハ任意聽聞スルコトヲ得

第六十二條 研究科ノ卒業試験ハ論文試問トス

卒業論文ハ二人以上ノ指導講師之ヲ批判ス

落第者ハ更ニ一年以上修業ノ後再ヒ試験ニ應スルコトヲ得

第六十三條 研究科ノ卒業試験ニ應セントスル者ハ受験料金五圓ヲ納ムヘシ

第六十四條 研究科ノ試験ニ及第シタル者ニハ其専攻ニ係ル學科ノ卒業證書ヲ授與ス

第六章 選科聽講

第六十五條 本大學課程中一科目又ハ數科目ヲ選ヒテ聽講セント欲スル者アルトキハ銓衡ノ上各科ノ定員ヲ超エサル範圍内ニ於テ其聽講ヲ許ス

聽講料ハ一科目一ヶ月金五十錢トシ一科目ヲ加フル毎ニ金三十錢ツ、ヲ増ス

但シ一科目トハ第十一條第三十四條及ヒ第四十四條ノ定ムル所ニ依リ一級中ノ一科目ヲ指スモノトス

第六十六條 前條ノ規定ニ依リ聽講スル者ニハ本章特ニ定ムルモノ、外一般ノ學則ヲ準用ス

第七章 外國語專修科

第六十七條 外國語ヲ研究セント欲スル者ノ爲メ本大學ニ附屬シテ外國語專修科ヲ置ク

第六十八條 外國語專修科ハ英語及獨逸語ノ二科トス

其學科課程左表ノ如シ

學科	學期	第一學期		第二學期		第三學期		第四學期		科別
		授時	業每	授時	業每	授時	業每	授時	業每	
英 語	獨 逸 語	讀方、會話、文法、譯解	書取、譯文、書取	一	一	一	一	一	一	英語專修科 獨逸語專修科
		讀方、會話、文法、譯解	書取、譯文、書取	一	一	一	一	一	一	
英 語	獨 逸 語	讀方、會話、文法、譯解	書取、譯文、書取	一	一	一	一	一	一	英語專修科
英 語	獨 逸 語	讀方、會話、文法、譯解	書取、譯文、書取	一	一	一	一	一	一	獨逸語專修科

備考

一、每週授業時數ハ都合ニ依リ變更スルコトアルヘシ但シ一週十時間ヲ下ルヲ得ス

二、本表ノ外漸次其科目ヲ増加スルモノトス

第六十九條 外國語專修科ノ定員ハ四百名以內トス其入學者ノ資格ニ付テハ第三十六條第二號ニ依ル

第七十條 修業期ヲ四學期(二年)ニ分チ每學期ノ始ヲ入學期トス

但シ入學期ノ外補缺トシテ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第一學期 九月十一日ヨリ十二月二十五日ニ至ル

第二學期 一月八日ヨリ七月十日ニ至ル

第三學期 九月十一日ヨリ十二月二十五日ニ至ル

第四學期 一月八日ヨリ七月十日ニ至ル

第七十一條 第十條、第十三條、第十五條乃至第十九條ハ之ヲ外國語專修科學生ニ準用ス

第七十二條 外國語專修科ノ授業料ハ第一學期金四圓第二學期金六圓第三學期金四圓第四學期金六圓トシ分納額一個月金一圓トス

但シ授業料納付ノ手續ハ一般ノ學則ニ依ル

第七十三條 外國語專修科ニ於テハ第四學期ノ終ニ卒業試験ヲ舉行ス

但シ試験ニ付テハ一般ノ學則ヲ準用ス

第八章 給費生、特待生、貸費生及ヒ留學生

第七十四條 學生中學術優等品行方正ナル學生ヲ選ヒ銓衡ニ依リ給費生又ハ特待生トス

第七十五條 給費生ハ當該學年間年額百二十圓以內ノ學資ヲ給與シ特待生ハ當該學年間授業料ヲ免除ス

第七十六條 給費生又ハ特待生ニシテ品行不良、怠惰若クハ疾病ニ依リ成業ノ目途ナキトキハ直ニ其待遇ヲ解ク

第七十七條 學生中學資支辨ノ途ナキ者ハ銓衡ニ依リ貸費生トシテ當該學年間年額金百二十圓以內ヲ貸與スヘシ

第七十八條 貸費ヲ受ケント欲スル者ハ其事情ヲ具シタル願書ヲ學長ニ宛テ差出スヘシ

第七十九條 貸費ヲ受ケタル者ハ總テ卒業後一年目ヨリ貸費ヲ受ケタルト均シキ期間内ニ於テ

其金額ヲ月賦返納スヘシ

第八十條 貸費ノ許可ヲ得タル學生ハ本大學ニ於テ相當ト認ムル保證人二名ト連署シテ左ノ證書ヲ差入ルヘシ

③三錢切手

誓 約 書

拙者儀今般貴大學貸費生ト相成候ニ付テハ總テ貸費規定ヲ遵奉スルハ勿論卒業ノ上ハ御貸與ノ資金規定ノ期限内ニ月賦返納可任此段誓約候也

年 月 日 何科學生 姓 名 ④

右何某今般貴大學貸費生ト相成候ニ付テハ在學中一切ノ事件ヲ引受クヘキハ勿論卒業若クハ退學ノ後貴大學貸付金返納ノ義務ヲ怠リ候節ハ拙者共ニ於テ御辨濟可任此段保證候也

保證人

原籍族

現住所

姓 名 ④

中央大學長

殿

第八十一條 貸費生ニシテ品行不良、怠惰若クハ疾病ニ依リ成業ノ目途ナキトキハ直ニ貸費ヲ止ム

第八十二條 貸費生ニシテ貸費ノ停止又ハ退學ヲ命セラレ若クハ自己ノ都合ニ依リ貸費ヲ辭シ又ハ退學スルトキハ貸與ヲ受ケタル金額ヲ即時ニ返納スヘシ

第八十三條 本大學卒業者ニシテ品行方正、學術優等將來有望ノ者ニハ特ニ學費ヲ貸與シテ海外ニ留學セシムルコトアルヘシ

留學生ニ關スル事項ハ派遣ノ都度臨機之ヲ定ム

第八十四條 本章中ノ貸費生及ヒ留學生ニ關スル規定ハ之ヲ豫科學生ニ適用セス

第九章 學生心得

第八十五條 教場ニ出席スルトキハ必ス制服制帽洋服若クハ袴ヲ着用スヘシ

第八十六條 教場ニ出席スルトキハ必ス聽講券ヲ携帶スヘシ若シ之ヲ携帶セザルトキハ退場ヲ命スヘシ又聽講券ヲ遺失シタルトキハ其旨會計係ニ届出テ再ヒ之ヲ申受クヘシ

但シ聽講券ノ再渡ヲ請フ者ハ手數料トシテ金二十錢ヲ納ムヘシ

第八十七條 教場ニ於テハ專ラ靜肅ヲ旨トシ苟モ粗暴ノ舉動アルヘカラス

第八十八條 教場ニ於テハ雜談又ハ喫煙ヲ禁ス

第八十九條 授業中ハ退席ヲ許サス若シ止ムヲ得サル事故アリテ退席セント欲スルトキハ講師ノ許可ヲ受クヘシ

第九十條 本章ノ規定ニ背反シタル者ハ情狀ニ依リ停學若クハ退學ヲ命シ尙ホ器具等ヲ損壞シタルトキハ相當ノ賠償ヲ爲サシム

第九十一條 三日以上闕席セント欲スルトキハ必ス其事由ヲ具シ保證人ト連署シテ届出ツヘシ

第九十二條 闕席届出ノ日數ハ一个月ヲ超ユルヲ得ス若シ一个月ヲ經過シ其事由尙ホ止マサルトキハ其都度必ス新ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第十章 補則

第九十三條 本大學ノ編入試験ニ依リ二年級以上ニ入學シ所定ノ試験ヲ經テ卒業シタル者ニシテ判事檢事登用第一回試験ヲ受ケントスルトキハ必ス其在學年間三學年ニ滿ツルマテ補修スルヲ要ス

第九十四條 補修學生ハ本大學ニ於テ指定スル學科ニ付キ修習スルモノトス

第九十五條 補修學生ハ他學生ト同シク一般ノ學則ヲ遵守スヘシ

圖書館規則

第一章 開館及閉館

- 第一條 本館ノ開閉時刻左ノ如シ
- 一月八日ヨリ七月十日マテ
午前八時開 午後九時閉
- 七月十一日ヨリ九月十日マテ
午前七時三十分開 同十一時三十分閉
- 九月十一日ヨリ十二月二十五日マテ
午前八時開 午後九時閉
- 但土曜日ハ午後四時ニ閉ツ
- 第二條 定期ノ休業日左ノ如シ
- 十二月二十六日ヨリ一月七日マテ
日曜日 大祭祝日 本大學記念日(十一月十一日)
- 但臨時ノ休業ハ其都度之ヲ揭示スヘシ

第二章 圖書閱覽

- 第三條 本館備付ノ書籍ハ閱覽室内ニ於テ本大學講師、職員、學員、學生、在外員並本大學及圖書館基金寄附者其他一般ノ閱覽ヲ許ス但酒氣ヲ帶ヒタル者其他本館ニ於テ閱覽ヲ許スヘカラスト認ムル者ハ此限ニ在ラス
- 第四條 圖書ヲ閱覽セントスル者ハ一日分金參錢ヲ會計係ニ納付シテ閱覽券ヲ申受クヘシ但學生及在外員ハ閱覽料ヲ要セス學生ハ聽講券ヲ以テ在外員ハ在外員證ヲ以テ閱覽券ニ代用ス
- 第五條 既納ノ閱覽料ハ事由ノ如何ヲ問ハズ返還スルコトナシ
- 第六條 本大學講師、職員、本大學及圖書館基金寄附者並學員ハ閱覽券及閱覽料ヲ要セス
- 第七條 圖書閱覽人ハ所定ノ借覽申込書ニ書名、番號及自己ノ氏名住所ヲ詳記シ閱覽券ヲ添テ之ヲ係員ニ差出スヘシ
- 第八條 他人ノ閱覽券、聽講券又ハ在外員證ヲ用ヒテ圖書ヲ借覽スルコトヲ許サス
- 第九條 圖書閱覽人ハ一時ニ三冊以上借覽スルコトヲ得ス
- 第十條 借受ケタル圖書ハ之ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ許サス
- 第十一條 圖書閱覽人暫時タリトモ閱覽室ヲ立出ツルトキハ必ス其借受ケタル書籍ヲ返納スヘシ
- 第十二條 借受ケタル圖書ハ閉館ノ時刻マテニ必ス返納スヘシ
- 第十三條 圖書閱覽人ハ靜肅ヲ旨トシ音讀、談論、雜話、喫煙等總テ他ノ妨害トナルヘキ舉動ヲ爲スヘカラス

第十四條 圖書閱覽人ハ猥リニ閱覽室内ノ机ヲ移動スヘカラス

第十五條 圖書館長ノ許可ヲ得タルモノ又ハ本大學講師ハ一時ニ三冊ヲ限り圖書ヲ借受ケ館外ニ携出スルコトヲ得

第十六條 前條ノ館外携出期限ハ一个月以内トス此期限ヲ經過シタルトキハ直ニ借受ケタル圖書ヲ返納スヘシ

第十七條 本館備付ノ圖書ニシテ部數少キモノハ館外携出ヲ謝絶スルコトアルヘシ

第三章 教科書貸與

第十八條 本大學學生ハ教科書ニ限り圖書係ノ許可ヲ得テ教場ニ携帯スルコトヲ得但授業了リタル後ハ直ニ返納スヘシ

第十九條 教科書ハ所定ノ保證金ヲ差入レシメ一定ノ期間自宅携帯ヲ許スコトアルヘシ

第四章 制裁

第二十條 第八條、第十條乃至第十二條ノ規程ニ違反シタル者ハ情狀ニ依リ一定ノ期間閱覽ヲ謝絶スルコトアルヘシ

第二十一條 借受ケタル圖書ヲ汚瀆、毀損若クハ紛失シタル者ニハ相當ノ辨償ヲ爲サシムヘシ

第二十二條 閱覽人本館備付ノ器物ヲ汚瀆若クハ毀損シタルトキハ相當ノ辨償ヲ爲サシムヘシ

第二十三條 前二條ノ場合ニ於テハ情狀ニ依リ一定ノ期間圖書ノ貸出又ハ閱覽ヲ謝絶スルコトアルヘシ

第二十四條 閱覽室内ニ於テハ閱覽人ハ總テ館員ノ指揮ニ從フヘシ若シ違反シタルトキハ情狀ニ依リ閱覽室ヨリ退去セシメ又ハ一定ノ期間閱覽ヲ謝絶スルコトアルヘシ

第二十五條 本章ノ規程ニ依リ借受人又ハ閱覽人ニ對シテ貸出又ハ閱覽ヲ謝絶シタルトキハ本館揭示場ニ之ヲ揭示スヘシ

第五章 圖書ノ受贈及受寄

第二十六條 圖書ノ寄贈アリタルトキハ受領證ト共ニ謝狀ヲ送り其圖書ニ寄贈者ノ氏名ヲ記シ且ツ圖書臺帳ニ該書名及氏名ヲ登錄シテ長ク其厚意ヲ傳フヘシ

第二十七條 公衆ノ閱覽ニ供スル爲メ本館ニ圖書ヲ寄託セントスル者アルトキハ其求ニ應スヘシ

第二十八條 寄託ノ圖書ハ寄託者ノ承諾ヲ得タル後ニアラサレハ一切館外携出ヲ許サス

中央大學學友會規則

- 第一條 本會ハ會員ノ辯論及體育ヲ獎勵スルヲ以テ目的トシ兼ネテ相互ノ親睦ヲ圖リ中央大學ノ學風ヲ發揮スルコトヲ期ス
- 第二條 本會ハ特別會員及通常會員ヲ以テ之ヲ組織ス
本會ノ推薦ニ係ルモノヲ特別會員トシ中央大學學生ヲ通常會員トス
- 第三條 中央大學學生ハ本會ニ加入スルノ義務ヲ有ス
- 第四條 本會ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ三部ヲ置ク
一 總務部
二 學藝部
三 體育部
- 第五條 總務部ニ於テハ本會ノ庶務、會計ヲ處理ス
- 第六條 學藝部ニ辭達學會、經濟學會、實業講話會及英語會等ヲ置ク
- 第七條 辭達學會ハ會員ノ辯論ヲ練習スルコトヲ主眼トシ隨時演說又ハ討論會ヲ開キ兼ネテ専門ノ學者ヲ招聘シテ學術講話會ヲ開ク
- 第八條 經濟學會ハ經濟、財政ノ學理ヲ研究スルコトヲ主眼トシ隨時演說又ハ討論會ヲ開キ兼ネテ

専門ノ學者ヲ招聘シテ學術講話會ヲ開ク

- 第九條 實業講話會ハ實業ニ關スル研究及談話ヲ主眼トシ隨時學識經驗アル實業家ヲ招聘シテ講話會ヲ開ク
- 第十條 英語會ハ英語ニ熟達スルコトヲ主眼トシ隨時専門家ヲ招聘シテ演習會ヲ開ク
- 第十一條 學藝部ニ於テハ隨時通常會員ノ論文會ヲ開催ス
- 第十二條 體育部ニ於テハ會員身神ノ鍛鍊ヲ主眼トシ柔道、劍道、弓術、野球及庭球等ノ諸會ヲ置ク
- 第十三條 前條諸會ニ於テハ日常會員ヲシテ教師又ハ委員指導ノ下ニ練習セシメ隨時斯道ノ先輩ヲ招致シテ演習會ヲ開ク
- 第十四條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
會長 一名
副會長 二名
幹事 一名
委員 若干名
- 第十五條 會長ハ中央大學長ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十六條 副會長及幹事ハ會長之ヲ任免ス
- 第十七條 委員ハ通常會員中ヨリ會長之ヲ指名ス委員ノ任期ハ一學年トス

第十八條 會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス
 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ其職務ヲ代理ス
 第十九條 幹事ハ庶務、會計ヲ管掌シ兼テ各部委員ヲ指揮監督ス
 第二十條 委員ハ各部ニ分屬シテ部務ニ從事ス
 第二十一條 各部ニ於テハ必要ニ應ジ部長又ハ會長ヲ置クコトアルヘシ
 前項ノ部長又ハ會長ハ本會會長之ヲ囑託ス
 第二十二條 通常會員ハ會費トシテ當分毎月金貳拾錢ヲ中央大學會計係ニ納付スヘシ
 第二十三條 本會經費ノ出納及保管ハ中央大學會計係之ヲ擔當ス
 第二十四條 本規則施行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

職員

理事長 菊池武夫
 理事 奧田義人
 理事 伊藤悌治
 圖書館長 渡邊又次郎
 幹事 佐藤正之

講師 (イロハ順)

法律科及經濟科

法學士	伊藤悌治	法學博士	一木喜徳郎	法學博士	石渡敏一
法學士	岩田宙造	法學士	磯谷幸次郎	法學士	池田寅二郎
法學士	市村富久	法學士	岩田一郎	法學士	岩本勇次郎
法學士	馬場愿治	法學博士	原嘉道	法學博士	花井卓藏
法學士	馬場鉄一	法學博士	仁井田益太郎	法學士	西野元

清水泰次郎 法學士 島田鐵吉 法學博士 土方寧
 平沼騏一郎 法學士 平山銓太郎 法學士 元田肇
 法學博士 泉二新熊 法學博士 關一 法學士 關場偵次
 法學士 杉程次郎

商科

法學士 伊藤悌治 法學士 市村富久 石川文吾
 伊藤萬太郎 法學士 長谷川方文 馬場鏌一
 商學士 大久保一男 法學博士 堀光龜 星野太郎
 鹿野清次郎 法學博士 岡野敬次郎 岡田實麿
 田崎義介 商學士 金井延 河津暹
 奈佐忠行 商學士 根岸信 瀧本美夫
 上田貞次郎 法學博士 桑田熊藏 中村進午
 松本丞治 法學博士 松浦和平 法學士 柳田國男
 法學博士 松浦和

法學博士 佐野善作 法學博士 西郷齊員 法學士 三浦惠一
 商學士 茂木英雄 法學博士 關一 法學士 杉程次郎

大學豫科

理學士 石田安治 理學士 石原純 池田四郎次郎
 文學士 葉山萬次郎 文學士 堀竹雄 長谷川方文
 文學士 林茂増 文學士 和田正幾 岡田實麿
 文學士 尾上八郎 文學士 渡邊又次郎 鷺見龜五郎
 理學士 加納清三 文學士 片山寛 金澤卯一
 文學士 高津敏三郎 文學士 竹村昌次 商學士 田崎義介
 理學士 根津千治 文學士 村上龍英 法學士 山田喜之助
 文學士 山口鑑太 文學士 松浦與三松 法學士 丸山通一
 文學士 福間博 理學士 藤原松三郎 理學士 福田爲造
 文學士 手塚光貴 文學士 淺田榮次 文學士 青木昌吉
 文學士 酒生慧眼 文學士 佐々政一 文學士 齋藤阿具

理學士 平田徳太郎

平井金三

廣井辰太郎

四二

中央高等豫備校

生徒募集

本校高等學校、高等商業學校、專門學校の入学受験者は、育を施すを目的とし、本校は中學校卒業又は之と同等の資格ある者を無試験にて入学せしむ。本校授業科目は、英語（又は獨逸語）、數學、物理、化學、博物、歴史、地理、國語、漢文等にして、講師富める博士學士等二十餘名にて新學年の授業は來九月十一日より開始すへきに付、入學志望の向きは成るべく速に申込みあるへし。○詳細は學則にあり

明治四十四年八月

東京市神田區錦町中央大學内

私立中央高等豫備校

校長 法學博士 菊池武夫

(一) 校外教育の沿革

法制經濟に關する知識の吾人日常の生活に缺くへからざることは多言を要せず官學私學共に其設備大に具はり斯學の隆昌日進月歩の勢あるに際し遠隔の地方に在り又は業務の爲め登校して親しく講義を聽くこと能はず空しく志を抱て之を遂くるに由なき者尠からざるを遺憾とし本校は明治十八年英吉利法律學校の創立と同時に講義の筆記を印刷して講義録と名つけ之を頒ちて法律學修習の便を計り所謂通信教授の方法を開設したるに當時直ちに其募集に應したる者四百二十名あり之を校外生と稱す爾來世運の推移に鑑み漸次講義録に改良を加へ校外生も年々歳々増加し二十二年校名を改むると共に之を在外員と改稱す其後民法、商法、裁判所構成法、民事訴訟法の發布せらるるあり又民法、商法の修正及び刑法の改正等常に是等の變遷と共に授業科目を改正し且つ幾多の改善を加ふ又明治三十八年經濟科の獨立するや法律科講義録發行の旨趣に則り該科に於ける講義を印刷して公衆に頒つこととし斯學に關しては國民經濟の發展に伴ひ主として最新學派の系統に依り從來我邦に行はれたる經濟學說を一新せんことを力めたり惟ふに講義録を發兌して在外員に頒つのは大學教育の校外普及を企圖するに外ならず

(二) 講義録の實質

講義録は本學講師の教場に於ける懇切なる講義の筆記なれば各科目共凡て詳論細説を掲載す從て高等文官、司法官、辯護士等各種受験の準備に於て些の遺憾なきは勿論斯學専門家、官公吏員又は農工商等一般民業に従事する者の爲めに有力なる参考と爲ることは蓋し疑を容れざる所なり故に苟も經世に志あり時務に心を用ふる者は此講義録に就て修習するの必要あるへし

- (イ) 法律科 在りては其授業科目は帝國憲法、行政法、國際公法、國際私法、刑法、刑事訴訟法、民法、商法、民事訴訟法、經濟學、財政學等にして之を三學年に分ち富井、奥田、岡野、中村、山田、清水の諸博士は孰れも重要な科目を擔任せられ殊に前學年來多年京都帝國大學教授として盛名ありし法學博士岡松參太郎氏及び法學博士仁井田益太郎氏は民法を擔任せらる
- (ロ) 經濟科 の授業科目は經濟學總論、純正經濟學、貨幣論、信用並銀行論、交通政策、商業政策、殖民政策、工業政策、社會政策、財政學、統計學、簿記學、民法、商法、憲法、行政法、國際公法、國際私法、商業史及商業地理等にして殊に各種經濟政策講義の如きは殆んど他に類例なき所にして其説述は整然たる分類の下に徹を擧げ細に入りて實に斯學界の獨歩たり而して又之を三學年に分ち金井、河津、高野、桑田、山崎、福田の諸博士は孰れも重要な科目を擔任せらる

(三) 教授の特色

本學は講義録の發行は大學教育の校外擴張の一方法たる旨趣を體し讀者をして充分の効果を收得

せしめんことを期し最も左の諸點に腐心したり

- (イ) 一年年完結 講義録は毎年十月一日に始まり翌年九月三十日に終り各學年一年年にて完結す末號に至て尙ほ完載し得ざる科目あるときは直に號外を發して之を完結せしめ各科目一として完備の講義ならざるはなし是故に在外員にして其學習力豊富ならんか各學年を兼修せば僅かに一年年にて全學科を卒業することを得へし
- (ロ) 講義の精密周到 講義録所載の講義は既に一言せし如く主として本學講師が教場に於て諄々説明する所の講演を筆記し更に講師の校訂を経るか然らざれば講師の自筆に成るものなるか故に其正確にして内容の精密周到なることは世上既に定評あり
- (ハ) 行文の平易簡明 講義録發行の旨趣たる斯學の普及に顧みて所載の講義は皆其行文を平易にし繁を去り簡に就き溢を忌み明を尙ふを以て苟も普通教育の素養ある者は何人も容易に之を了解することを得へし
- (ニ) 所掲講義の斬新 本學は讀者か一日も世界の新知識に後れざらんことを望み講義録には斬新なる講義を登載することを努め若し新學年に於て舊學年の講義を復載するときは講師の嚴密なる校閲を経るを常とす是れ多年同一の講義を登載して毫も改訂を加へざるものと大に其撰を異にする所なり
- (ホ) 質疑應答 在外員は講義録に登載する諸科目に付き疑問あれば在外員規則に従ひ通信を以て

之を質すことを得如何なる疑問と雖も懇切なる解答を與ふべく殊に質問解答にして參考に供するの價値あるものは時々講義録に掲載することあるへし

(へ) 參考資料の掲載 講義録には講義を掲載する外法制經濟に關する内外學術上の記事を掲載して讀者の參考に資し又應試者の便を圖り高等文官、判檢事、辯護士試験及第者中本學出身の諸氏に請ひて修飾なき答案を掲載すへし

(四) 在外員の成績

在外員は年と共に其數を増加し今や日本全國は勿論清、韓兩國南洋諸島、南北兩米等の各地に散在して既に其業を了へたる者及び現に修學中の者を合せて十數萬の多に達し現に卒業者にして諸種の試験に合格し高等文官、司法官、辯護士たる者指を屈するに違あらず其他政治に實業に其學ひ得たる知識を利用する者の多きは言を跋たす又學則に従ひて校内生に轉したる者は概ね成績良好にして幾多俊秀の士を出せり亦以て如何に通信教授の效果の偉大なるかを知るべく且校外に在るも自習の力能く業を成すに足るべきことを識るに難からざるへし

中央大學在外員規則

第一章 通則

第一條 本大學は登校して親しく講義を聽聞する能はざる者の爲め在外員の制を設け本大學講義録を頒て修學の便を與ふ

第二條 講義録は法律科及經濟科の二種とし兩科共第一年級第二年級第三年級の三級に分つ

第三條 法律科講義録登載科目左の如し

科目	第一級	第二級	第三級
法學通論	法學通論		
國法學	憲法		行政法
民法	民法總論、物權法、債權法	物權法、債權法	
商法		商法總論、會社法、商行為論、手形法	保險法、海商法
刑法	刑法汎論	刑法各論	
訴訟法		刑事訴訟法	民事訴訟法

破産法	經濟學	國際法
破産法	經濟學	國際私法

第四條 經濟科講義録登載科目左の如し

科目別	第一級	第二級	第三級
經濟學	經濟學總論	貨幣論、農業政策	信用銀行、商業政策、殖民政策、社會政策及工業政策、保險政策
財政學			財政學
統計學	統計學	人口及經濟統計學	
簿記學	簿記學		
商業史	商業史		
商業地理	商業地理		
民法	民法總論、物權法、債權法	物權法、債權法	
商法		商法總論、會社法、商行為論、手形法	保險法、海商法

國法學	憲法	行政法
國際法	國際公法	國際私法

第五條 講義録は各學年共毎月二回之を發行し壹冊の紙數百五十頁を標準とす若し學年末に至り掲載し盡さざる科目あるときは號外を發行して完結す

第六條 法律科講義録の發行日左の如し

- 第一年級 五日 二十日
- 第二年級 十日 二十五日
- 第三年級 十五日 三十日

第七條 經濟科講義録の發行日左の如し

- 第一年級 三日 十八日
- 第二年級 八日 二十三日
- 第三年級 十三日 二十八日

第八條 講義録には講義を掲載する外法律經濟に關する學術上の有益なる記事及廣告類を掲載す

第九條 在外員の學年は十月一日に始まり翌年九月三十日に終る

第十條 在外員には各自其證票を交付す

第二章 入學及退學

第十一條 在外員は試験を要せず何時にても各級へ入學することを得
第十二條 在外員たらんと欲する者は左記の在學證に月謝を添へて申込むへし

法律科(若くは) 在外員第一(二若くは) 年級在學證

私儀今般貴大學法律科(若くは) 在外員として入學御許可相成候上は在學中御規則堅く相守可申候

年月日

族籍現住所

姓

名

印

年月日生

中央大學御中

第十三條 學年の中途より入學する者と雖も講義録の初號より順次配付すへし但現月以前の月謝は適宜之を分納することを得

第十四條 在外員は各級を兼修することを得此場合に於ては各別に在學證を差出すへし
第十五條 退學せんとする者は退學届書と共に在外員證を返付すへし

第三章 試験

第十六條 在外員にして卒業證書を得んと欲する者は其學年の終る前在外員係に申出て各學年若くは第三年級の終に於て試験を受くへし

第十七條 試験は通信試験とし申込により試験問題を受験者各自に送付して答案を徴するものとす

試験舉行の期日及其受験手續は各學年の終に於て講義録に之を公告す

第十八條 試験成績優等なる者は次學年の月謝の全部若くは一部を免除し又は賞品を授與す

第四章 質疑

第十九條 在外員は講義録に登載する諸科目に付疑問あるときは通信を以て質疑を爲すことを得
第二十條 質問書は總て本大學質問委員に宛て送付すへし

第二十一條 質問書には講義録の名稱號數(合本に爲したる爲め號數を見出し難きときは此限にあらす) 科目並に頁數を示し疑問の要點を明瞭に記載すへし

第二十二條 質問の主旨不明瞭と認めたるもの若くは質問通信の文意了解し難きもの又は擬律擬判に係るものは解答せざるへし

第二十三條 質問解答にして参考に供するの價値ありと認むるものは時々講義録に掲載すへし

第五章 特 權

第二十四條 六个月以上在外員となり現に繼續する者にして校内生に轉する時は入學料を免除す

第二十五條 在外員にして試験を了したる者は左の區別に従ひ無試験にて校内生に編入す

一、第一年級の試験に及第したる者は第一年級

二、第二年級の試験に及第したる者は第二年級

三、卒業證書を有する者は第三年級

第二十六條 第一年級の及第證明書を有する者にして第二年級へ第二年級の及第證明書を有する者にして第三年級への編入を望む者は特に既修學科中數科の試験を行ひ之に及第したるときは其志望の年級に編入を許す

前項の試験は本大學に於て之を行ふ其科目、期日及方法は豫め之を指定す

第二十七條 前二條に依り校内生に轉する者は之を法律學科、經濟學科専門科別科生とす但本大學學則に依り正科生たるの資格を有する者は之を正科生に編入す

第二十八條 在外員は本大學圖書館の書籍を閲覽することを得へし

第二十九條 在外員は本大學の討論會、講談會及訴訟演習等に出席することを得へし

第三十條 在外員は本大學出版の書籍、雜誌等の特價にて購入することを得へし

第三十一條 在外員に對し時々懸賞問題を出して論文を提出せしめ優等者には第十八條の例によりて授賞す

第六章 學 費

第三十二條 在外員は月謝として各年級一个月毎に金四拾錢を納付すへし但左の資格の一を有する者に付ては特に金參拾五錢に減額す

一、巡查、看守、憲兵及陸海軍下士官以下の者

二、諸官衙公衙の雇員

三、諸學校生徒及雇員

四、會社、銀行、商店、辯護士事務所其他私家の雇員

第三十三條 歐米各國其他日本郵便局の設置なき外國に在り講義録の配付を請ふ者は規定月謝の外郵送料として各年級毎に一个月金二十錢を納付すへし

第三十四條 月謝は毎月二十五日迄に翌月分を前納すへし但數月分を前納するも妨なし

第三十五條 月謝を前納せざる者には講義録の配付を停止す

第三十六條 月謝は振替貯金を以て拂込むべし但都合により郵便爲替にて拂込む者は受取人を中央大學會計係とし又爲替拂渡所は神田小川町通郵便局を指定すべし

第三十七條 振替貯金にて月謝を納付する者は拂込通知票の表、裏面に必ず左の記入を爲し且つ送金の都度登記料金一錢を加送すべし

一、表面 口座番號欄に 東京四七六二番

加入者氏名欄に 中央 大學

二、裏面 金何錢 但法律科(若くは)經濟科 何年級何月分

金一錢 但振替貯金口座登記料

第三十八條 入學の際振替を以て月謝を納付する者は前條裏面記入の外第十二條に定めたる在學證と同一の記入を爲すべし但し本書末尾に添附せる用紙を用ゆるときは記入を要せず

第三十九條 月謝を拂込むときは引續き講義録を配付するを以て別に受領證を出さす

第四十條 本人の都合により中途退學する者既に拂込みたる月謝の殘餘あるときは之に對する講義録を配付し現金の返戻を爲さす

第四十一條 納付すべき金員に付ては總て郵券代用を許さす

第七章 雜則

第四十二條 講義録に落丁あるときは其講義録の名稱、年級、號數、學科名落丁の頁數を明記して追送を請求すべし

第四十三條 各所定年限の講習を終へたる者には其希望に依り證明書を付與す

第四十四條 在外員にして已むを得ざる事故により其資格を他人に引繼かしめんとするときは授受兩者連署して届出つべし

第四十五條 月謝送付及照會の信書は總て學科、年級及氏名を楷書にて認め在外員係宛差出すべし

第四十六條 在外員住所氏名を變更したるときは其學科と新舊兩住所及氏名とを併記し直に之を在外員係に通知すべし

20131193

第七章 附

第四十六號 茲將前次所定學費...
 第四十七號 日商於前次所定學費...
 第四十八號 茲將前次所定學費...
 第四十九號 茲將前次所定學費...
 第五十號 茲將前次所定學費...
 第五十一號 茲將前次所定學費...
 第五十二號 茲將前次所定學費...
 第五十三號 茲將前次所定學費...
 第五十四號 茲將前次所定學費...
 第五十五號 茲將前次所定學費...
 第五十六號 茲將前次所定學費...
 第五十七號 茲將前次所定學費...
 第五十八號 茲將前次所定學費...
 第五十九號 茲將前次所定學費...
 第六十號 茲將前次所定學費...

明治四十四年八月

東京市神田區錦町貳丁目貳番地

中央大學

20131193

入學試験日

學則第十三條に依る大學部入學試験は九月七日及十六日同第三十六條第二號に依る専門部入學試験は九月一日より隨時同第十二條第二項第三十七條に依る上級への編入試験は九月九日以後毎週土曜日何れも午前八時より舉行す

入學資格

大學部入學資格は學則第十二條、専門部正科入學資格は第三十六條第一號、専門部別科入學資格は同條第二號、大學豫科入學資格は第四十八條を一讀あるへし
無試験入學の有資格者は成るべく九月十日迄に入學の申出あるへし

20131193